

# 高知県感染症発生動向調査（月報）

2022年8月

高知県感染症情報センター

高知県衛生環境研究所

TEL:088-821-4961 FAX:088-825-2869

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/>

E-mail: 130120@ken.pref.kochi.lg.jp

## 全国情報

第31週（8月1日～）から第34週（～8月28日）までの4週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。全国における8月の上位6疾患の合計は30.51で7月の36.22と比べて減少した。同時期を過去10年間で比較すると、新型コロナウイルス流行前の30～60台と比べると少ないが、コロナ後の3年間で比べると年々増加してきている。

1位は手足口病で11.99（7月2位8.44）と増加した。2位は感染性胃腸炎で7.58（同1位14.52）、3位はRSウイルス感染症で6.46（同3位8.42）といずれも減少した。4位はヘルパンギーナで2.67（同4位2.14）と増加した。5位は突発性発疹で0.94（同6位1.34）、6位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で0.87（同5位1.36）といずれも減少した。

### 〈全国の新型コロナウイルス感染症 COVID-19〉

オミクロン株（ $\omicron$ 株）による第6波は2022年1月に始まり、2月のピーク以降は高止まりした。 $\omicron$ 株は、 $\alpha$ 株や $\delta$ 株に比べて、肺よりも上気道で増殖し重症化しにくい、強い感染力、短い潜伏期間が特徴で、小児感染例が多い。2022年になって一貫してこの $\omicron$ 株が流行しているが、亜種がBA.1.1→BA.2→BA.5へ主流が置き換わるたびに感染力が強まっている。7月には第7波が到来し感染者数が激増した。世界一コロナ患者数が多い不名誉な8月を過ごし、遅れて死者数増加が顕著となった。

世界的には、患者数は6億人、死亡は650万人を超えた（図1；9月6日時点）。日本ではこれまで粘り強く続けてきた全数報告が限界に達しており、9月には定点報告や高リスク者のみの報告にかかわると報じられている。国別の累計患者数で初めて日本が10傑に登場した。患者数を国別にみると、1位米国（9,476万人、人口あたりの感染率28.63%）、2位インド（4,446万人、感染率3.22%）、3位フランス（3,481万人、感染率53.33%；感染率トップ）、4位ブラジル（3,447万人、感染率16.22%）、5位ドイツ（3,229万人、感染率38.55%）、6位英国（2,373万人、感染率34.97%）、7位韓国（2,370万人、感染率46.24%）、8位イタリア（2,194万人、感染率36.30%）、9位日本（1,953万人、感染率15.45%）、10位ロシア（1,948万人、感染率13.35%）である。

日本の患者数を図1右に示す。2021年4月～6月は $\alpha$ 株、7～8月は $\delta$ 株の流行による患者急増と死亡がみられた。9月以降は増加がゆるやかとなり、ワクチンの効果と思われた。しかし、2022年に入って $\omicron$ 株による感染爆発（第6波）が起きた。2月初めには、ピーク時に国内感染者数が10万人/日を超え、その後高止まりし減少は緩やかとなった。月間感染者数は2月約200万人、3月約140万人、4月約120万人、5月約100万人、6月約50万人、BA.5が主流株にかかわって第7波を形成し、7月は約350万人、8月は約600万人を記録した。9月6日現在の国内感染者は19,534,517人、死者数は41,293人である。

COVID-19は高齢者ほど重症化しやすいが、第6波以降に致死率が低下した。 $\delta$ 株が流行した昨8月-9月までと、 $\omicron$ 株による第7波までとで致死率を比較すると、80代以上 約14.0%→3.3%、70代 約5.0%→1.0%、60代 約1.4%→0.2%と低下しており、 $\omicron$ 株になって軽症化は明らかである（図2）。しかしながら、感染者絶対数の増加に加えて、高齢者層の感染増加のために8月は死者数が著増した。

経時的な年齢階層別患者数を図3Aに、7月26日の時点で累積感染者数が人口に占める割合を図3Bに示す（総務省統計局作成の2021年8月現在人口推計を用いて算出<https://www.stat.go.jp/data/jinsui/pdf/202108.pdf>）。感染者の割合は、10歳未満がトップで25.36%（100人当たり25.36人が感染）、次いで20代が22.93%、10代が22.86%、30代20.26%、40代15.45%と続いている。当初は「おとなの感染症」であったが、 $\omicron$ 株になって「子どもに多い感染症」に変わった。保育施設に通う乳幼児の感染拡大は、医療者の労働力不足を招き、医療現場で新たなかたちの逼迫も加わっている。当該感染症に対する考え方は見直しが急がれる。

寒冷期を過ごした南半球の諸国では、コロナ前の水準のインフルエンザの流行があり、コロナの流行も同時にみられたという。日本でも今冬は3シーズンぶりにインフルエンザの流行が起きると予想されており、インフルエンザワクチン接種も盛んに勧奨されている。

表1 各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名	週	31週	32週	33週	34週	計
1	手足口病		3.32	2.64	2.71	3.32	11.99
2	感染性胃腸炎		2.38	1.61	1.67	1.92	7.58
3	RSウイルス感染症		2.32	1.59	1.31	1.24	6.46
4	ヘルパンギーナ		0.79	0.59	0.50	0.79	2.67
5	突発性発疹		0.29	0.21	0.21	0.23	0.94
6	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.28	0.20	0.18	0.21	0.87

## 県内情報

### 1. 全国との対比（定点当たり報告数）

日常的感染症は前月より少し増加したが、依然として低調である。高知県の7月の上位6疾患の合計は16.93で7月の15.14と比べて増加したが、全国よりも少なかった（表2）。過去10年の同月で比べると2020年の13.28に次いで2番目に少なかった（コロナ前の2019年以前は20～50台）。昨年は7月に爆発的なRSウイルスの流行があったが、今年もじわりと増えて流行が始まっている。

1位は感染性胃腸炎で6.14（同1位6.79）わずかに減少し全国よりも少なかった。2位はRSウイルス感染症で5.56（同2位2.86）、3位は手足口病で2.43（同9位0.33）といずれも増加したが全国よりも少なかった。4位は咽頭結膜熱で1.11（同3位1.82）と減少したが全国よりも多かった。5位はヘルパンギーナで0.86（同8位0.68）と増加したが全国よりも少なかった。6位は突発性発疹で0.83（同4位1.62）と減少し全国よりも少なかった。

### 〈高知県のCOVID-19〉

高知県におけるCOVID-19の月別患者数と死亡者数を図4に示す。2021年8月は東京五輪とともに急増し計1,382人まで増加した（8月25日にそれまでの1日最多の111人）が、秋の小休止をはさんで、2022年1月から急増し第6波に突入（2月11日に最多の311人）した。3月、4月と小幅に減少したが、GWで5月は再び患者数増加に転じ、5月10日に最多の366人を記録し、5月は合計6,178人と月間最多となった。6月は3,055人で半減した。第7波の7月は、1日最多を5回塗り替え、月間最多数の12,898人を記録した。8月に入って増加に拍車がかかり、1日最多は7回塗り替られて8月24日には2,031人/日を記録した。8月は計41,335人であった。その後、8月下旬にようやく減少に転じている。

9月6日時点の集計では感染者は89,775人となり先月から倍増した。死亡は先月から146人増えて267人となった。死亡数の増加は患者絶対数の激増に加えて、高齢者の感染者割合が増加した（図7）ことが原因と推測される。集団発生（クラスター）は、GW後と6月下旬と8月にピークがあり（図5）、8月は高齢者施設と医療機関での発生が増加し、高齢感染者割合の増加をもたらした。

2022年2月以降に高知県で検出および解析されたウイルス変異株の内訳を図6に示す。1月上旬の大半はδ株であったが、1月中旬以降にο株（BA.1）が増加し、主たる流行株に置き換わった。3月中旬からο株の亜種であるBA.2が増加し、4月以降に主流株に置き換わった。亜種BA.5が6月22日に県内で初めて検出され、7月中旬以降は主流株に置き換わった。

県の対応ステージは、2021年8月19日に「非常事態（紫）」に引き上げられたが、10月28日には「感染観察（緑）」に引き下げられていた。しかし、第6波の到来により、翌2022年1月7日「注意（黄）」、同14日に「警戒（オレンジ）」、20日に上から2番目の「特別警戒（赤）」に引き上げられ、さらには、2月12日～3月6日まで本県に「まん延防止等重点措置」が適用された。3月24日には病床利用率の低下を受けて「警戒（オレンジ）」に引き下げられた。7月の第7波で、「最大確保病床の占有率」が40%を超え、「直近7日間の70歳以上の新規感染者数」が490人/週を超えたため、7月29日に「警戒」から「特別警戒（赤）」に、さらには8月16日に最も厳しい段階である「当別対策（紫）」に引き上げ、同時に「BA.5対策強化宣言」を発出した。

第7波の感染拡大のために、発熱外来は混雑し受診が難しくなった。県は、8月5日に、有症状者（重症化リスクのない65歳未満の者）に抗原定性検査キットを配布し、受診せずに自ら検査する体制を整えた。これにより、発熱外来診療に若干の余裕が生まれ、有効な施策であった。

コロナワクチンについては、3回目のブースター接種が進められ、3月から5-11歳の小児への接種が開始された。12～19歳でも2回接種を受けた者が71.4%に昇り、3回接種を済ませた者も各世代で少しずつ増えた（表3）が40代以下の若年層では不十分であり勧奨の対象となっている。基礎疾患を有する者、高齢者、医療者を対象に4回目接種も進められている。o株対応の新たなワクチンも接種が始まる予定である。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	週	31週	32週	33週	34週	計
1	感染性胃腸炎		1.93	1.04	1.50	1.67	6.14
2	RSウイルス感染症		1.29	1.64	1.11	1.52	5.56
3	手足口病		0.50	0.25	0.64	1.04	2.43
4	咽頭結膜熱		0.43	0.36	0.25	0.07	1.11
5	ヘルパンギーナ		0.21	0.14	0.29	0.22	0.86
6	突発性発疹		0.25	0.14	0.25	0.19	0.83

図1. 2022年9月6日時点でのCOVID-19（厚生労働省 HP から）

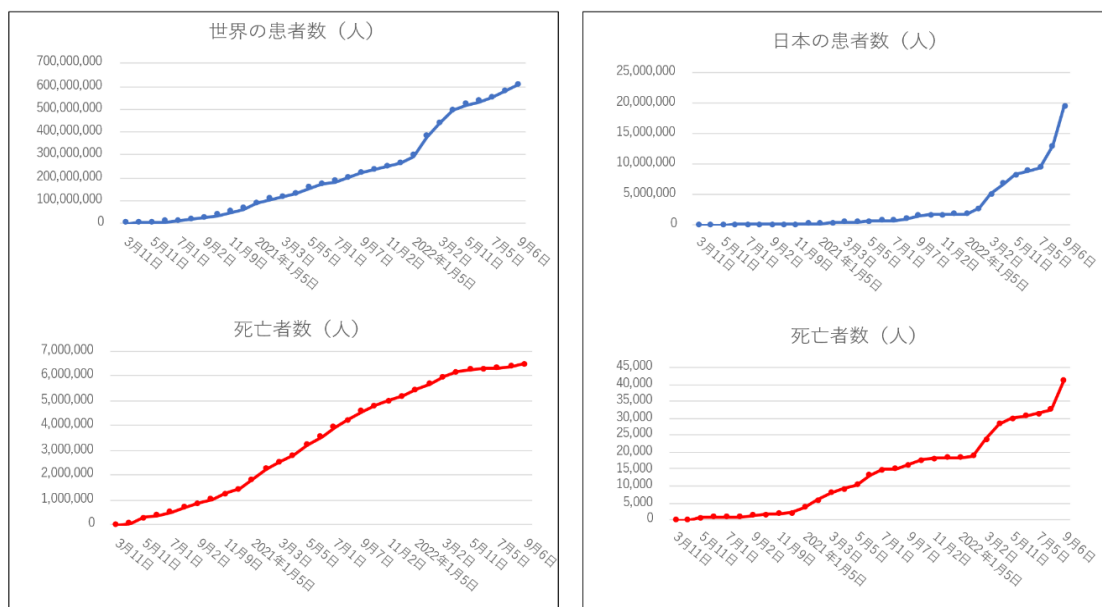


図2. 高齢者におけるCOVID-19死亡率の経時的推移

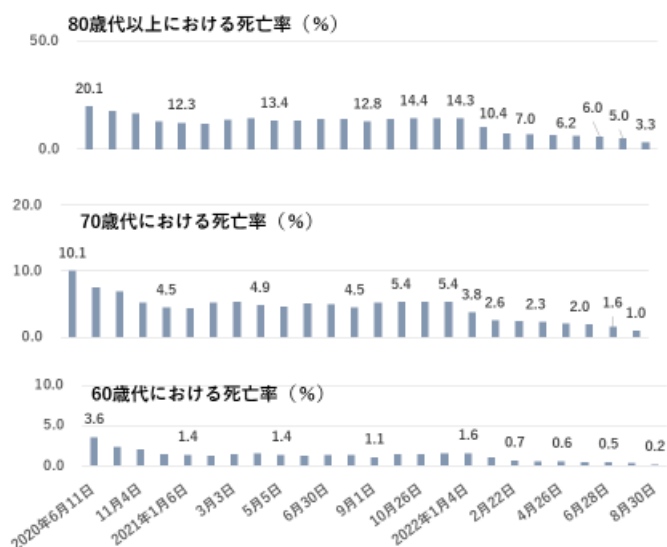


図3A. 経時的な年齢層別感染者数

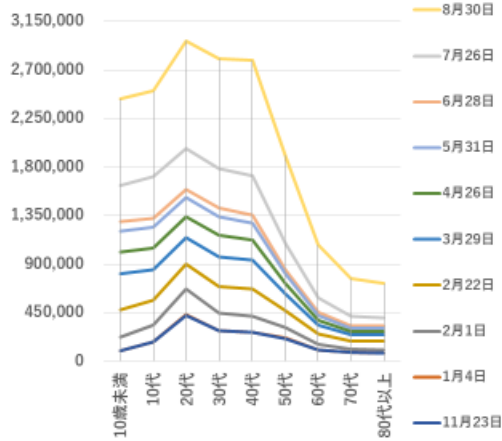


図3B. 年代階層別感染者割合 (2022/8/30時点)

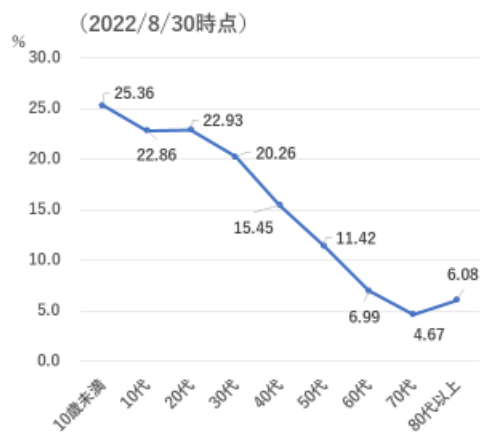
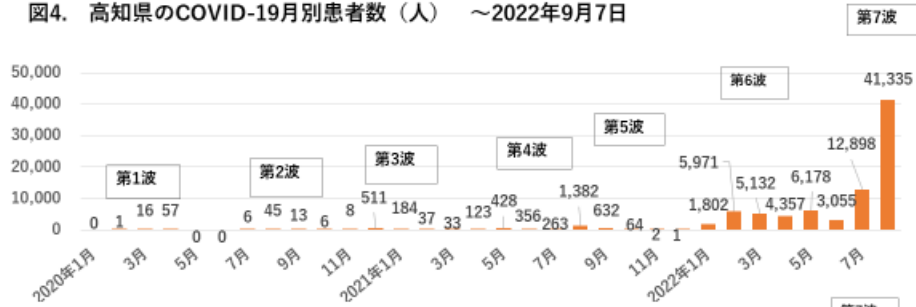


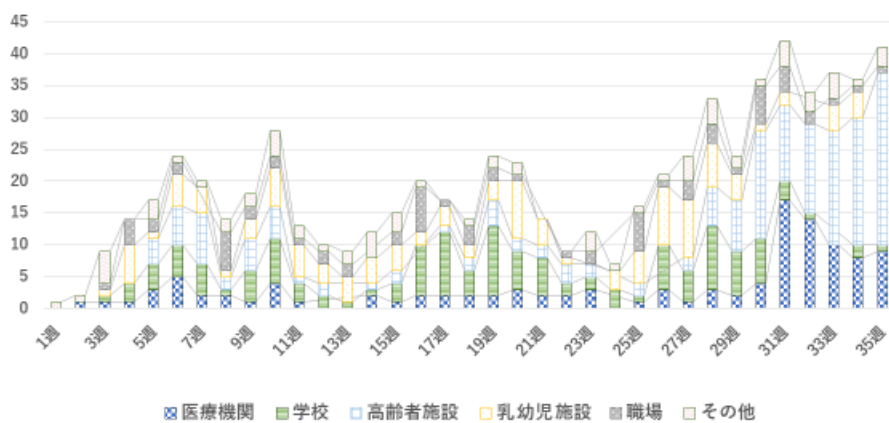
図4. 高知県のCOVID-19月別患者数 (人) ~2022年9月7日



高知県のCOVID-19月別死者数 (人)



図5. 県下のCOVID-19集団発生件数 (2022年)



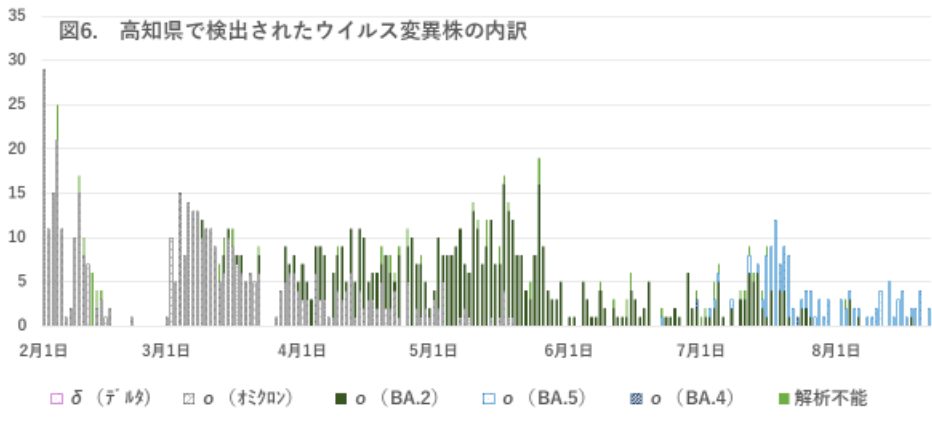


図7. 高知県COVID-19患者の年齢別比率

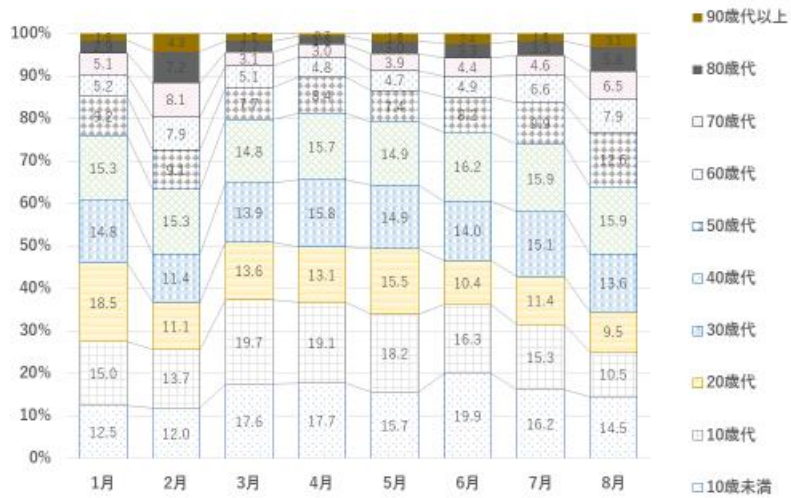


表3. コロナワクチン2回目および3回目の接種率

(2022年8月28日時点)

	2回接種	3回接種
全国(対象者)	84.1%	66.7%
泉全体(対象者)	82.5%	65.6%
高知県 65歳以上	90.4%	85.8%
同 60～64歳	86.8%	78.6%
同 50代	86.3%	73.0%
同 40代	79.0%	58.1%
同 30代	75.2%	50.7%
同 20代	77.7%	48.7%
同 12～19歳	71.4%	36.0%
同 5～11歳	16.8%	-
1回目を受けた11歳以下は19.4%		
4回目接種(60歳以上)は49.65%		

## 2. 全体の傾向

麻疹、風しんの報告無し。パンデミックによる衛環研の業務増大のため、感染症発生動向調査としての病原体を検出する事業を1月から休止している。

## 3. 主な疾患の発生状況

### 1) インフルエンザ

報告数 3名 (7月 0名)。2020/21年に続いて2021/22シーズンも流行がなく、これは統計がある1998年以降で初めてである。しかし、寒冷期を過ごした南半球諸国では2年ぶりに、コロナ前の水準でインフルエンザの流行が起きていることは示唆的である。高知市で2名、安芸で1名報告された。

### 2) 咽頭結膜熱

報告数 31名 (7月 51名)。新型コロナで日常的感染症が減る中、4月までは多めで推移したが、5月は例年通りの数となっていた。6月は増加して過去10年間では2019年に次いで2番目に多かったが、7-8月は平常並みに落ち着いた。幡多、高知市、須崎、中央東から表記の順に多く報告された。アデノウイルスとの関連が否定できない小児の重症肝炎が世界的に報告されており注目されている。

### 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 7名 (7月 20名)。7月、8月と過去10年間で最も少ない報告数だった。須崎、中央西、高知市、幡多から表記の順に多く報告された。

### 4) 感染性胃腸炎

報告数 170名 (7月 190名)。同時期で過去10年間のうちで2020年、2021年に次いで少ない報告数だった。中央西以外の全域から報告されたが、高知市、中央東、幡多が特に多かった。

### 5) 水痘

報告数 11名 (7月 20名)。ここ10年で最も少なかった。須崎、安芸、高知市から表記の順に多かった。

### 6) 手足口病

報告数 67名 (7月 9名)。例年は5-6月に流行が始まるが、今年は遅れて8月に流行が始まった。県下全域から報告があり、高知市、幡多、須崎が特に多かった。

### 7) 伝染性紅斑

報告数 1名 (7月 2名)。2020年9月以降は一桁の少ない報告数が続いている。中央東から1名報告された。

### 8) 突発性発疹

報告数 23名 (7月 45名)。想定内の変動である。

### 9) ヘルパンギーナ

報告数 24名 (7月 19名)。流行が始まったが規模は小さい。同時期としては過去10年で2020年に次いで少ない報告数だった。安芸以外の全域から報告された。

### 10) 流行性耳下腺炎

報告数 0名 (7月 2名)。2020年10月から2022年1月まで同時期として過去10年で最少が続き、2月以降も一桁で少ない報告数が続いている。

### 11) RSウイルス感染症

報告数 154名 (7月 80名)。コロナ流行開始後の2020年は、11月～3月に異例のゼロが続いた。2021年は5月57名、6月395名、7月1,543名と急増した。8月は1,013名と減少に転じ、10月以降は終息した。2021年夏は季節外れの爆発的流行があったが、その後の秋以降落ち着いたが、7月から流行が始まった。高知市、中央西、中央東、須崎から表記の順に多く報告された。類似した症状を起こすヒトメタニューモウイルスも8月末から流行し始めており、注意が必要である。

12) 流行性角結膜炎

報告数 2名(7月 4名)。高知市で2名が報告された。

13) 細菌性髄膜炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 0名(7月 0名)。年間10名前後の報告で推移していたが、2017年以降は6名/年以下で推移している。乳児を対象としたHibと肺炎球菌ワクチンの定期接種がはじまって以降はこれらを原因とする小児例の報告は1例もなく、成人例も近年減少している。

14) 無菌性髄膜炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 0名(7月 0名)。従来は年間20-30名台の報告数で推移していたが、2017年7名、2018年1名、2019年5名、2020年2名、2021年も3名と少なく、今年もゼロが続いている。

15) マイコプラズマ肺炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 0名(7月 0名)。2020年11月~2022年4月は、同時期として過去10年間で最少が続いた。

基幹定点の月報疾患

16) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 21名(7月 21名)。平年並みである。高知市、幡多、中央東から表記の順に多く報告された。

17) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 0名(7月 0名)。年1-2名の報告が続いている。

高知県感染症発生動向調査部会  
前田 明彦

高知県における月別全数報告疾患(令和4年8月)

類型	病名	報告月								総計
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	
2	結核	6	5	8	6	4	9	1	3	42
3	腸管出血性大腸菌感染症							2		2
4	E型肝炎				1					1
	重症熱性血小板減少症候群			1						1
	日本紅斑熱					1		1	1	4
	レジオネラ症	1					2		2	5
5	アメーバ赤痢	2					1			3
	ウイルス性肝炎					1				1
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症			1		1	1		1	4
	クロイツフェルト・ヤコブ病				1					1
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症		1	1	1					3
	後天性免疫不全症候群							1		1
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1	1							2
	侵襲性肺炎球菌感染症			2						2
	水痘(入院例に限る)			1		2				3
	梅毒	2	4	4	6	2	5	2	4	29
	播種性クリプトコックス症						1		1	2
	破傷風			1					2	3
	百日咳					1				1
	総計		12	11	19	15	12	21	6	14

# 高知県感染症情報 月報 (62定点医療機関)

2022年 8月

定点名	疾病名	保健所							計	前月	前年同月
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多				
内科・小児科	インフルエンザ	1		2				3			
小児科	咽頭結膜熱		2	15		2	12	31	51	21	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			2	1	3	1	7	20	43	
	感染性胃腸炎	5	38	97		4	26	170	190	135	
	水痘	2		4		5		11	20	14	
	手足口病	1	5	38	2	4	17	67	9	320	
	伝染性紅斑		1					1	2	1	
	突発性発疹	1	2	12	4	3	1	23	45	17	
	ヘルパンギーナ		1	14	3	3	3	24	19	104	
	流行性耳下腺炎								2	7	
	RSウイルス感染症		39	89	21	5		154	80	1,013	
眼科	急性出血性結膜炎										
	流行性角結膜炎			2				2	4	1	
STD	性器クラミジア感染症		1	1				2	3	3	
	性器ヘルペスウイルス感染症										
	尖圭コンジローマ								1	1	
	淋菌感染症										
基幹	細菌性髄膜炎									1	
	無菌性髄膜炎									1	
	マイコプラズマ肺炎									2	
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)										
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスである ものに限る)			1				1			
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		1	17			3	21	21	16	
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症										
	薬剤耐性緑膿菌感染症										
計		10	90	294	31	29	63	517	467	1,700	
前月		9	111	225	27	19	76				
前年同月		48	314	611	89	57	581				
小児科定点数		2	7	11	3	2	5				



# 高知県感染症情報 月報(63定点医療機関)

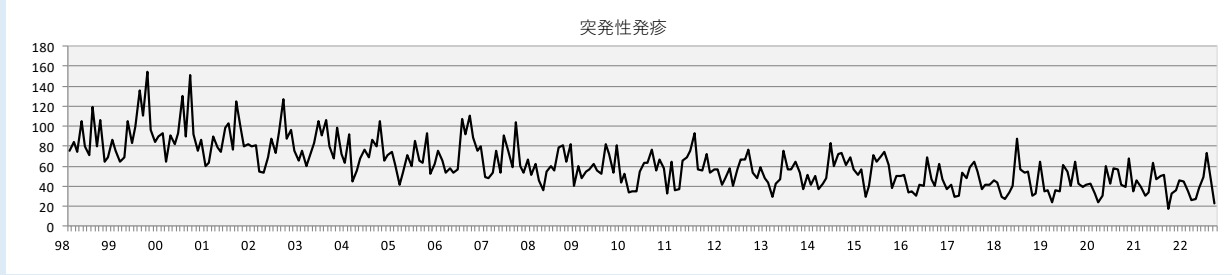
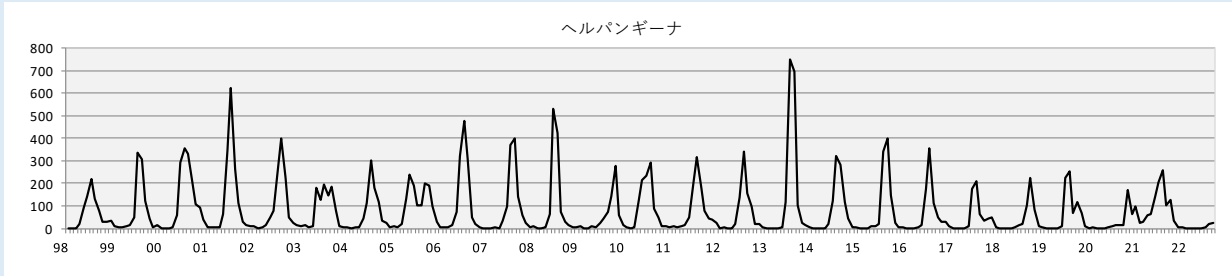
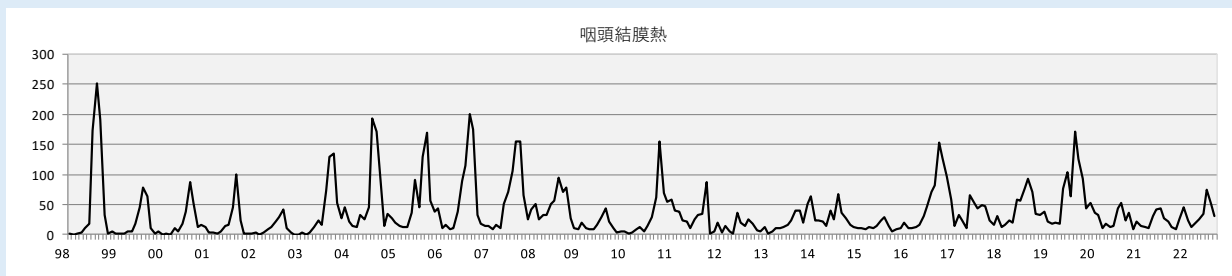
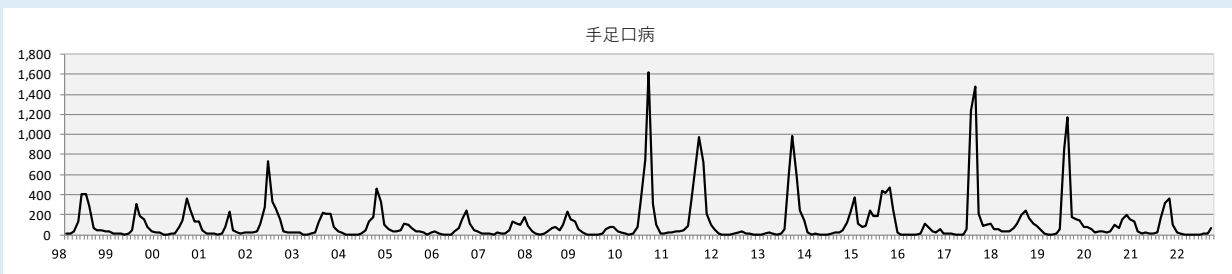
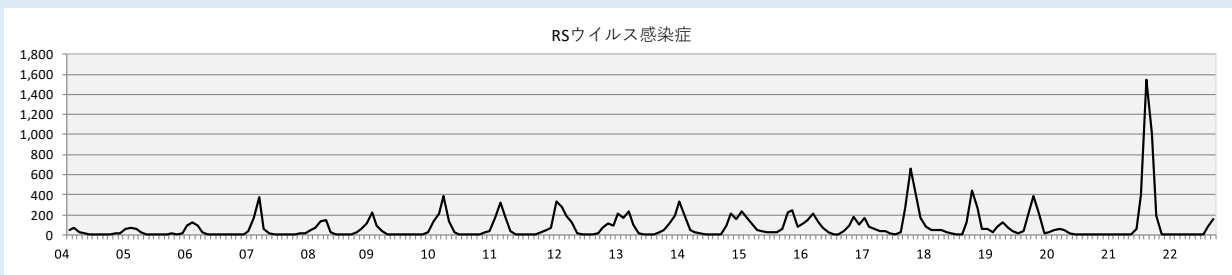
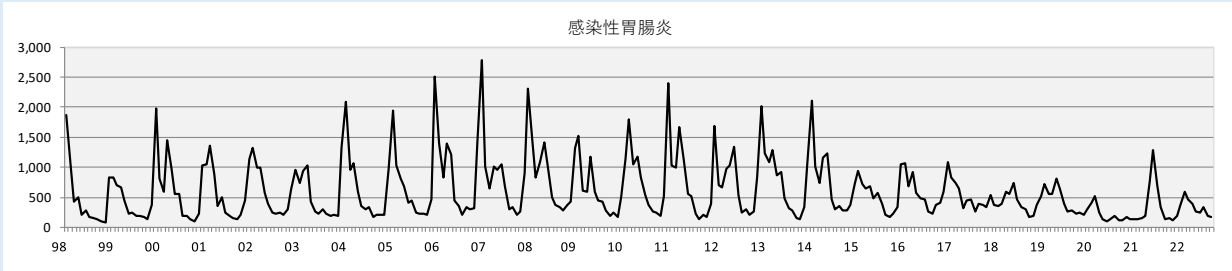
2022年

8月

定点当たりの人数

定点名	保健所 疾病名	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前月	前年同月
内科・小児科	インフルエンザ	0.25		0.14				0.06		
小児科	咽頭結膜熱		0.29	1.67		1.00	2.40	1.11	1.82	0.75
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			0.22	0.33	1.50	0.20	0.26	0.71	1.53
	感染性胃腸炎	2.50	5.44	10.77		2.00	5.20	6.14	6.79	4.82
	水痘	1.00		0.44		2.50		0.40	0.71	0.50
	手足口病	0.50	0.71	4.21	0.66	2.00	3.40	2.43	0.33	11.43
	伝染性紅斑		0.14					0.04	0.08	0.04
	突発性発疹	0.50	0.28	1.33	1.83	1.50	0.20	0.83	1.62	0.60
	ヘルパンギーナ		0.14	1.55	1.00	1.50	0.60	0.86	0.68	3.71
	流行性耳下腺炎								0.08	0.25
	RSウイルス感染症		5.57	9.89	7.83	2.50		5.56	2.86	36.18
眼科	急性出血性結膜炎									
	流行性角結膜炎			2.00				0.66	1.34	0.33
STD	性器クラミジア感染症		0.50	0.50				0.33	0.50	0.50
	性器ヘルペスウイルス感染症									
	尖圭コンジローマ								0.17	0.17
	淋菌感染症									
基幹	細菌性髄膜炎									0.13
	無菌性髄膜炎									0.13
	マイコプラズマ肺炎									0.26
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)									
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスである ものに限る)			0.20				0.13		
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		1.00	3.40			3.00	2.63	2.63	2.00
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症									
	薬剤耐性緑膿菌感染症									
小児科定点分計		4.75	12.57	30.22	11.65	14.50	12.00	17.69	15.68	59.81
前月		4.00	15.55	22.19	8.97	9.50	15.00			
前年同月		23.50	44.42	65.87	29.65	28.50	115.60			

# 注目される疾患別月別推移



類型	病名	報告年																					総計			
		1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019		2020	2021	2022
2	結核									131	149	163	156	192	132	128	138	129	122	110	97	103	60	65	42	1917
	計									131	149	163	156	192	132	128	138	129	122	110	97	103	60	65	42	1917
3	コレラ	1					1						1													3
	細菌性赤痢	11	4	2		3	1	2	2											2						27
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	5	2	34	2	4	9	1		2	209
	腸チフス		1						1									1				1				4
	パラチフス	2																								2
	計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	5	3	34	4	4	10	1	0	2	245
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1		3						3	1			2				34
	E型肝炎											1		1								2	1		1	6
	オウム病			1		1														1						3
	Q熱	1	1	2				1																		5
	重症熱性血小板減少症候群															3	11	3	7	5	5	9	6	4	1	54
	つつが虫病		9	5	2	4	5	7	6	2	5	4	5	8	3	3		4	11	2	3	3	1			94
	デング熱												1			3	2	1				2				9
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4	1	7	4	13	6	13	10	23	16	4	215
	日本脳炎	1	1	1					1			1	1													6
	マラリア								2					1								1				4
	レジオネラ症		2		1		1				9	7	3	6	9	2	4	4	3	6	9	7	8	8	5	94
	レプトスピラ症											1		4	2	1					1					9
	計	20	21	26	12	23	21	19	16	4	20	19	18	31	24	13	27	15	28	30	29	36	41	29	11	533
5	アメーバ赤痢		2	2	2	1	2	2	2	1		3	2	2	3		7	3	2	5	3	3		1	3	51
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3		3		1				2	1	1	2	2	63
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症																	7	19	21	22	21	20	10	5	129
	急性弛緩性麻痺																					1	2			3
	急性脳炎								1	1	2	5	1	3	1		1	1	1	1		2	1	1		22
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4		4	3	3		6		1	3				2			2	1	1	3		1	36
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症			1	1	1				1		1		1	3		1		3	5	6	2	2	5	3	36
	後天性免疫不全症候群	2		2		2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2	7	6	9	6	9	1	6		1	82
	ジアルジア症		1	2	1							1		1	1							1				8
	侵襲性インフルエンザ菌感染症																1	5	3	4	7	3	1	1	2	27
	侵襲性肺炎球菌感染症															1	4	12	16	18	14	22	11	9	2	109
	水痘（入院例に限る）																	2	1	1	3		3	3	3	16
	髄膜炎菌性髄膜炎									1																1
	梅毒	2	3	4	4	12	9	6	27	6	5	5	2	4	10	8	4	11	12	23	19	20	35	96	29	356
	播種性クリプトコックス症																			1	3	5			2	11
	破傷風		3	2	2	1		1	1	2	3	1	1	1	1		4	3	3	1		2	3	1	3	39
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症			1								1							1		1	1				5
百日咳																					173	172	35	3	384	
風しん										1	1			4	9	1					3				19	
麻しん											5														5	
	計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	40	63	72	94	268	251	112	127	55	1402
新型	新型インフルエンザ												34													34
	新型コロナウイルス感染症																							663	3505	4168
	計												34										902	3505	4441	
動物	鳥インフルエンザ														1											1
	計														1											1
	総計	61	48	67	42	51	53	47	61	189	198	258	201	242	193	164	210	210	256	238	398	400	1116	3726	110	8539